

新館常設・第6展示室

＝開館40周年記念＝

特集展示「シルクロードと日本」

～池田大作先生と平山郁夫先生が紡いだ文化交流の足跡～

[会期：2023年9月16日－12月10日 / 2024年1月4日－2月12日]

東京富士美術館は、開館40周年記念の特集展示として「シルクロードと日本」を開催いたします。本展示では、シルクロードの精神と芸術の重要性に着目し、要衝の地・敦煌をはじめとしたシルク



莫高窟入口にある人物紹介パネル

ロードの文化遺産の保護・研究活動に対して支援を続けてこられた二人の日本人を紹介します。東京富士美術館の創業者・池田大作先生(1928-2023)と日本画家・平山郁夫先生(1930-2009)は、敦煌の文化遺産を守り未来へ繋げゆく活動をする敦煌研究院と交流を重ねてきました。莫高窟の入口の門をくぐった右手に、これまで敦煌の文化財保存のために種々の支援を行なった貢献者を顕彰する人物紹介パネルが設置されていますが、そこにもこの二人の名前と業績が記されています。

池田大作先生とシルクロード ―敦煌の光彩

池田大作先生は、敦煌研究院の前身である敦煌文物研究所の初代所長を務めた常書鴻氏と李承仙夫人と深い交流を結び、対談集を刊行し、敦煌文化の保護のために支援を行いました。また、東京富士美術館が企画した「中国敦煌展」の開催、創価大学が実施したシルクロードの遺跡発掘調査、東洋哲学研究所が取り組むシルクロードの学術研究など、それぞれ創立者の立場で支援を続けてきました。

本展示ではその交流の証の品として、常書鴻氏から中国敦煌展の開催を記念して先生に贈られた絵画《雪の莫高窟》や第7次訪中を記念して常書鴻・李承仙夫妻より贈られた《敦煌伎楽》をはじめ、中国敦煌展に出品された敦煌莫高窟の模写絵である《西域隊商図(法華経変・観音普門品部分 / 420窟)》《于闐国王后曹氏供養像(復原 / 98窟)》《帝王図(220窟)》などを展示します。



段文傑・馬強《西域隊商図(法華経変・観音普門品部分 / 420窟)》創価学会蔵



李其瓊・関友恵《于闐国王后曹氏供養像(復原 / 98窟)》創価学会蔵

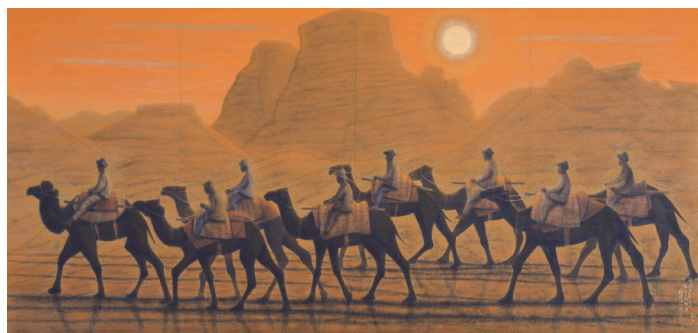
平山郁夫先生とシルクロード ―崑崙の西から

平山郁夫先生は、1968 年、消失した法隆寺金堂壁画の再現模写のメンバーに選ばれたことを契機に、その源流といわれるアフガニスタンのバーミヤン石窟寺院の壁画を取材。以後、中国・中央アジア・西アジア諸国に取材し、シルクロードとの関わりを深めてゆきました。敦煌の 7 回を含め、シルクロードの訪問と取材は 2002 年までに 57 回を数えます。「私がシルクロードを歩くようになったのは、日本文化の始まりである仏教伝来の道をたどることが目的」だったという平山画伯は、「仏教伝来」をはじめ「玄奘三蔵への道」「アレクサンダーの道」シリーズなどを手がけました。その集大成ともいべき作品群が連作「大シルクロード」です。また、シルクロードの文化財を保存・収集する活動にも力を入れ、そのコレクションは平山郁夫シルクロード美術館に収められています。

本展示では、同館が所蔵する《観音菩薩半跏思惟像》などのガンダーラ彫刻をはじめとした文物資料から平山郁夫先生のシルクロードをテーマとした絵画にいたる作品を展示します。



平山郁夫《楼蘭遺跡に行く・月》平山郁夫シルクロード美術館蔵



平山郁夫《楼蘭遺跡に行く・日》平山郁夫シルクロード美術館蔵

本館・ミュージアムシアター

= 開館 40 周年記念 =

体験型イベント展示

「敦煌莫高窟 285 窟の再現模型」

[会期：2023 年 9 月 16 日－12 月 10 日 / 2024 年 1 月 4 日－2 月 12 日]

開館 40 周年記念のイベントのひとつとして、本館・ミュージアムシアター内に「敦煌莫高窟 285 窟の再現模型」を設営します。

このたび再現を試みる第 285 窟は、敦煌莫高窟の中でも最も豊かな造形性を持つといわれています。今回は、創作者・池田大作先生と敦煌研究院との 40 年以上にわたる友誼の証として、特別に再現するものです。

悠久のロマンに思いを馳せ、莫高窟の世界を体感してみてください。



敦煌莫高窟 285 窟の再現模型イメージ